



東京赤坂ロータリークラブ週報
Weekly Report

2018～2019 年度クラブテーマ
会長 小林 博茂

「手に届く奉仕、目に見える奉仕」

● 本日の例会 2018 年 11 月 02 日 通算 1502 回 本年度 第 17 回

卓話 : 「仮想通貨とブロックチェーンの未来」 仮想通貨オタク 松岡 誠 氏

● 第 1501 回 合同例会報告 / 2018 年 10 月 26 日

出席報告 : 会員 56 名 / 出席 33 名 欠席 23 名

ゲスト : 小嶋 修一 (卓話)、杜 聡

ビジター : 守屋弓男 (東京 RC)、藍沢宝珠 (東京世田谷中央 RC) 計 4 名 (順不同・敬称略)

卓話 : 「がんと肺炎球菌」

株式会社 TBS 報道局 解説委員 (医療問題) 兼エキスパート部長兼 JNN「報道特集」担当 小嶋 修一 氏



紹介者 : 長谷川会員



10月 26日 9 件 18,000 円 累計 509,000円

多額の寄付を有難うございました。(敬称略)

小林博茂/金山驍/土屋東一/岩上義明/西澤民夫/石井達/長谷川毅/藤本亮/高山宇佳

会長報告 :

地区からのご案内等につきましては各担当委員会の委員長へも配信するようにいたします。

国際大会担当 : (熊本会員)

6/1～の国際大会ガバナーナイトのご案内がとどきましたことご連絡いたします。国際大会の参加者は、まだ募集しておりますので宜しくお願い申し上げます。

国際奉仕 : (石井達リーダー)

12/11「紅いパン」絵画展講演会&チャリティ晩餐会の参加者を募集しております。登録料の 1 万円は現金でもお振込みでも構いません。よろしくお願い申し上げます。

幹事報告 :

12/9 に芝商業高校でオリンピック・パラリンピック支援の一環の研修会『We are ONE! Rotary Sports Day』が開催されます。是非ご参加ください。

11 月 ピアノ演奏曲

ショパン作曲 : 『別れの曲』『革命のエチュード』『華麗なる円舞曲』『雨だれのプレリュード』

今コーラスで練習している『別れの曲』他、芸術の秋にショパンの名曲をお送りします。

ピアニスト 泉 晶子 氏

今後の予定 (対象者…全会員)	日 付	開始時間 終了時間	場 所	事 項	内 容
	11 月 6 日	18:30	MIXX & BAR (36F) ANA インターコンチネンタルホテル東京	火曜会	テーマ : 未 定
	11 月 9 日	12:30 13:30	B 1 オーロラ ANA インターコンチネンタルホテル東京	例 会	卓話 : 「出来ないことではなく出来ること ～車椅子の母との奇跡の時間」 フリーアナウンサー 町 亜聖 氏
	11 月 16 日	12:30 14:30	B 1 オーロラ ANA インターコンチネンタルホテル東京	例 会	第 3 回 クラブ協議会
	11 月 23 日	休 会 (勤労感謝の日)			
	11 月 30 日	12:30 13:30	37F アリエス ANA インターコンチネンタルホテル東京	例 会	卓話 : 「田中角栄のお庭番」 政経調査会 理事長 元内閣総理 大臣田中角栄秘書 朝賀 昭 氏

今年度の国際ロータリー (RI) の会長はバリー・ラシンさんで、今年度の RI テーマは「インスピレーションになろう」です。インスピレーションとは「インスパイアできる人」という意味で、「インスパイアする」とは周囲の人にやる気を起こさせるということです。会長は、奉仕活動することで世の中の一隅を照らし、地域社会、国際社会へのインスピレーションとなってくれと強く呼び掛けています。

国際ロータリーの方針

今年度の大切な事項として挙げているのは、まずポリオ撲滅です。ロータリーは 30 年来、ユニセフや世界保健機関 (WHO) と共に熱心にポリオ撲滅に取り組んできて、患者数は激減していますが、なかなかゼロになりません。最後の最後でマンパワーが必要で、費用もかかります。今年度は第 2750 地区もポリオ撲滅への支援を優先事項に挙げ、1 人 30 ドルの寄付をお願いしたいと考えています。

もう一つは、ロータリーデーの開催です。目的は、地元の皆さんにロータリーが何をしているのかを知っていただくことです。今年はこれを地区やクラブでぜひ行ってほしいのです。また、地区としても 99 のクラブが一緒に行うロータリーデーを来年 5 月 12 日曜日に、赤坂アークヒルズで計画しています。ぜひお知り合いやご家族を連れてご参加いただきたいと思います。

地区の方針

今年度、地区では「つながり」を大事にしています。会員と会員、会員とクラブ、クラブと地区、地区と RI、各クラブと地域社会のつながりを強いものに、距離をできるだけ縮めるのです。つながっていてこそ、お互いに交流し合い、共に行動することができ、インスパイアし合うこともできると考えています。そこで、地区ではホームページの内容を充実し、アクセスしやすいようにアプリケーション化をしました。スマホでぜひダウンロードしていただきたいと思います。一方、今年度は「ガバナー月信特別号」を年度初めに配りました。この中には地区に関するたくさんの情報が詰まっていますので、目についたところから読んでいただきたいと思います。それから、いろいろなクラブの方が入れる同好会があってもいいと思うので、興味のあるものがあればぜひご参加ください。

そして、地区内のクラブはぜひインスピレーションになれるクラブになってほしいのです。そのためには会員の基盤をきちんとし、ロータリーの奉仕活動を行うことです。会員基盤の強化にはまず会員増強ですが、今年度は各クラブの会長に目標数を出していただき、その合計 439 名の実現を支援することを地区の目標としました。ぜひ皆さまで力を合わせてこの目標を達成していただきたいです。新しい会員を迎えることは大変うれしいことですが、それ以上に今いる会員の皆さまがずっとクラブにつながっていることが大切です。お互いにクラブでしっかりつないだ手を離さないでください。

ロータリーの素晴らしさ

ロータリーの歴史は 1905 年 2 月 23 日の夕刻、シカゴのディアボーンストリートにあるユニティ・ビルの 7 階で、弁護士のポール・ハリスをはじめとする 4 人が会合を開いたことが始まりです。その 4 人が仲良く力を合わせてロータリーを発展させていったと思いますが、『奉仕の一世紀』という本によると、4 人のうちガスターパス・ローアという鉱山技師は健康上の理由から数年でロータリーを退会し、紳士服仕立業の

ハイラム・ショリーは例会に 2 回しか出なかったそうです。しかし、ポール・ハリスと石炭商のシルベスター・シールは新しい仲間を増やしてロータリーをどんどん発展させ、半年後には会員が 30 名、1 年後には約 80 名になりました。そして、ロータリークラブをアメリカ全土に次々とつくり、世界中にも広げ、20 年後にはクラブ数約 2000、会員数約 11 万人になったのです。

なぜこのように短期間に発展できたかという、当時の会員は、ロータリークラブが世界のどんなクラブとも違う、大変素晴らしいものだと思っていたからだと思います。そして、その素晴らしさを友人や知人に語り、それを聞いた友人が入会し、入ったクラブに大変満足したことをまた友人に語るという繰り返しがどんどん行われていったからです。

では、会員たちはロータリーの何に満足していたかというと、素晴らしい人との出会いと信頼できる良い仲間がいることです。また、会員のみんなと奉仕活動することで、少しでも社会の役に立っているという喜びがあります。ロータリーは、今の自己よりも良い自己になることを目指している人たちの集まりです。自分のことだけを考えるのではなく他者への愛を持った人、高潔性を重んじ倫理観を大事にできる人になろうという志を持った人たちが集まり、交流して高め合っています。そこに大変満足していました。これは今も変わることのないロータリーの真理ではないでしょうか。

しかし、社会情勢や人々の生活様式・価値観などが変化の中で、ロータリーも時代に合わせて少しずつ変化してきました。ラシン会長は「私たちロータリアンは世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人々が手を取り合って行動する世界を目指しています」という新しいビジョン声明を発表しました。「自分自身」という言葉が入っているのは、ロータリーならではの思いです。

多様性を大切に

これを受けて 2750 地区の戦略計画委員会は、地区の戦略計画ビジョンを 7 月に発表しました。「地区内のロータリークラブがロータリーの理念・目的を理解し、ロータリーの規則を守った上で、伝統を大切にしつつ、時代に沿ってそれぞれ個性あるビジョンを持ち、多様性と活気にあふれ、地域社会・グローバル社会に良い変化をもたらす行動ができるよう支援する」。この中で「多様性」が一つのキーワードになると思います。私たちは多様性を大事にし、それが自分たちの特色であり魅力なのだというビジョンをはっきりとさせることで、より大きなものになっていくのです。すると、いろいろなカラーが出てきます。そこで大事なことは、自分たちと違う価値観を認め合うことです。その中から気付きも出てきて学ぶことができます。また、一つのクラブの中でも、さまざまなバックグラウンドを持つ会員が真に交流して、共に行動し、影響し合い、インスパイアし合うことこそ、本当の多様性であり、インスピレーションになれる会員基盤ができると思います。

そして、寄付も尊い奉仕だと思います。ロータリー財団の父といわれるアーチ・クランフは、「金だけでは大したことはできない。個人の奉仕は金がなければ無力である。この二つが組み合わせられれば、文明は天の恵みとなることができる」という言葉を残しています。

来年 2 月 22、23 日には、グアムで地区大会を開催します。PBG (Pacific Basin Group) のロータリアンとの交流を深めたいと思います。今年度の国際大会は来年 6 月 1~5 日、ドイツのハンブルグで開催されます。世界中のロータリアンが一堂に集う空気をぜひ感じていただきたいです。